

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	「意思決定の場への女性の参画」促進応援プラン ～寄ってたかって男女共同参画を活かしたまちづくり～
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	男女共同参画みえネット
実施期間	2011年10月1日～2012年3月31日
支援額 (注釈参照)	※ 支援額は総額及びその内訳を記載してください。 1,245,600円 講師謝金 221,180円 旅費 71,609円 使用・賃借料 102,730円 印刷製本費 262,280円 人件費 297,600円 通信運搬費 38,730円 消耗品費 202,281円 食糧費 24,900円 事務局経費 18,000円 その他 6,290円
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	(これまでの取り組み) 企業説明(男女がいきいきと働いている企業知事表彰受賞・認証企業説明会)10/20 13社参加(該当22社中) 企業来訪・訪問 2社 市町事業説明(市町男女共同参画担当者研修での説明)10/28 市町訪問(事業説明)四日市市、亀山市、鳥羽市、伊勢市、志摩市、伊賀市、名張市、桑名市、津市、松阪市、菰野町、川越町、朝日町、多気町 市町訪問(市町協働実施に向けて課題の聞き取り)亀山市、四日市市、鳥羽市、伊勢市、志摩市、伊賀市、名張市、桑名市、津市、松阪市 世話人会(男女みえネット世話人、男女共同参画・NPO室男女共同参画G担当者) 市町訪問(協働実施市との打合せ)四日市市、NPO法人四日市男女共同参画研究所、男女みえネット世話人、男女共同参画・NPO室男女共同参画G担当者 (今後の予定) 県が育成した人財、男女がいきいきと働いている企業三重県知事表彰企業・認証企業、市町、県、男女共同参画みえネットの五者による地域別関係者懇談会を開催予定。
事業概要	※ 事業の概要が分かるように、100～150字程度で簡潔にまとめて記載してください。 県内の市町を訪問し、男女共同参画推進状況を聞き取り中で市町の課題を共有し、協働して方策を探る。また、女性が意思決定の場で活動できる力量を形成するための人財育成講座・学習会を地域で行う。さらに、地域の活性化に女性が不可欠であるための講演会を地域で開催する。併せて、男女がいきいきと働いている企業知事表彰を受賞した企業を中心に連携し、地域における「寄ってたかって男女共同参画を活かしたまちづくり」を効果的に推進するための体制づくりを行う。

事業内容	<p>※ 事業内容、実施事項、実施方法、実施の分担（直接、委託、助成を含めて）等について記載してください。</p> <p>※ 委託・助成した団体等がある場合、当該団体名等について記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市町訪問による男女共同参画推進状況の聞き取りとともに、それによって課題を共有する。このことから、市町と協働して課題解決の方策を探る。 2. 審議会等での女性の参画を少なくとも30%とすることを目標に置き、あらゆる分野（自治会・まちづくり・防災など）への波及を目指し、人財育成講座・学習会を地域で行う。そのことによって、審議会等の委員として活動できる力量を形成するためのスキルアップを図る。 3. 女性の参画で地域が活性化した事例を紹介することを目的に、講演会を地域で行う。そのことによって、女性の参画の必要性や意義を、地域の人に理解を深めることができる。 4. 男女がいきいきと働いている企業三重県知事表彰を受賞した企業を中心に連携し、地域における「寄ってたかって男女共同参画を活かしたまちづくり」を効果的に推進するための体制づくりを行う。また、これらの企業の取組を、地域に知らせる。そのことによって、他の企業の取組を促進するきっかけとし、企業内の人財を掘り起こすことができる。 <p>協働実施市町一四日市市、亀山市、松阪市、伊勢市、志摩市、伊賀市</p>		
得られた成果及び自己評価	<p>※支援の成果、波及効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <p>29市町に向けて、協働実施についての希望を募ったところ、10市から希望するとの回答があった。202030に向けて何かをしなくてはという思いを掘り起こせたことは、意味あることだと考える。</p> <p>協働実施する市町が決定後、県が育成した人財、男女がいきいきと働いている企業三重県知事表彰企業・認証企業、市町、県、男女共同参画みえネットの五者が連携し、地域における「寄ってたかって男女共同参画を活かしたまちづくり」を効果的に推進するための体制づくりを行う。この事業により、あらゆる分野への女性の参画を進め、地域の活性化を図る。</p> <p>※202030・・・第2次男女共同参画基本計画（平成17年12月閣議決定）で、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大のために、あらゆる分野で、「2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%」にするという目標。第3次男女共同参画基本計画（平成22年12月閣議決定）でも喫緊の課題とされている。</p> <table border="1" data-bbox="422 1512 1436 1639"> <tr> <td data-bbox="422 1512 534 1639">評価ラ ンク</td> <td data-bbox="534 1512 1436 1639"> <input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった （該当する評価に☑を付けてください。） </td> </tr> </table>	評価ラ ンク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった （該当する評価に☑を付けてください。）
評価ラ ンク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった （該当する評価に☑を付けてください。）		

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

その他参考となる書類 ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	島ヶ原地区の林業資源を生かした木工体験ツアーの推進
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	穂積製材所プロジェクト実行委員会
実施期間	平成23年9月26日～平成24年3月31日
支援額 (注釈参照)	総額：750,000円 内訳 人件費：400,000円 諸謝金：50,000円 旅費：90,000円 消耗品費：110,000円 印刷製本費：0円 事業広報費：60,000円 計画策定等費：40,000円
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	穂積製材所プロジェクト実行委員会、島ヶ原木材工業有限会社、NPO法人伊賀・島ヶ原おかみさんの会、三重県環境森林部、森林・林業経営室を中心に2011年度は活動をすることができた。2012年度は県内の類似テーマの活動団体とのネットワークづくりや森林管理に関する技術、知識の提供を頂く機会をより多く設け、本プロジェクトのスタッフの基盤づくりにも力を入れたい。
事業概要	※ 事業の概要が分かるように、100～150字程度で簡潔にまとめて記載してください。 三重県伊賀市島ヶ原地区の製材所を拠点に都市住民を対象とした木工スクールを開設します。地域産材を活用した「木工体験」と、林業の現場で森林問題について学ぶツアーとしても展開します。地域産材製品（家具等）のブランディングや製品開発、そして地域の主婦グループと連携した木工作品以外の特産品の研究開発などにもチャレンジしたいと考えています。
事業内容	※ 事業内容、実施事項、実施方法、実施の分担（直接、委託、助成を含めて）等について記載してください。 ※ 委託・助成した団体等がある場合、当該団体名等について記載してください。 ○木工体験モニターツアー 実施内容：木のぬくもりや香り、手触りを楽しんでもらえる木工体験ワークショップを実施。 製材所内の見学を実施。 対象者：都市の学生。 実施方法：本プロジェクトのスタッフのネットワークを活用して都市の学生に呼びかけ、モニターツアーを実施。地域の木工作家に指導してもらいながら、間伐材を利用した木工作品を1人1つ作成。 実施の分担：穂積製材所プロジェクトスタッフ・・・企画、運営 島ヶ原木材工業有限会社・・・木材の提供、技術指導 NPO法人伊賀・島ヶ原おかみさんの会・・・食事の提供 ○環境学習

実施内容：森林に入り、手入れのされている林床とされていない林床を見学。
間伐体験。

対象者：都市の学生。

実施方法：製材所から車で10分程度の森林に行き、森の香り、音、光を感じてもらえる簡単なゲームを実施。手入れのされている林床とされていない林床を見学することで、日本の林業の現状についてレクチャーを行った。また、地域の島ヶ原木材有限会社にサポートして頂きながら実際に間伐体験をし、木材を切り出して製材所まで運搬という流れを体験。

実施の分担：穂積製材所プロジェクトスタッフ…企画、運営
島ヶ原木材工業有限会社…林床案内、技術指導

○木工ワークショップ

実施内容：地域のお祭りに参加し、木工ワークショップを実施。

対象者：地域住民

実施方法：地域のお祭りに参加し、お祭り会場の一角で本プロジェクトのスタッフである地元の木工作家を中心に簡単な木工ワークショップを実施。

実施の分担：穂積製材所プロジェクトスタッフ…企画、運営
島ヶ原木材工業有限会社…木材の提供
NPO 法人伊賀・島ヶ原おかみさんの会…会場の提供

○他工房への視察

実施内容：岡山県西栗倉村の工房へ見学会を実施。

対象者：本プロジェクトスタッフ

実施方法：西栗倉村の木工作家さんをご紹介いただき、工房に見学に伺った。森林や工房を見学し、島ヶ原と西栗倉村の違いをヒアリング・分析。本プロジェクトの強みと改善点を整理するし今後の展開に活かしたい。

実施の分担：穂積製材所プロジェクトスタッフ…企画、運営
(見学先：木工房ようび)

○まちあるき

実施内容：島ヶ原のまちあるきを3回実施

対象者：本プロジェクトスタッフ

実施方法：地域住民の方の協力を得ながら、まちあるきのコンセプトを決め、3箇所まちあるきを実施。地域の方と一緒に歩くことで地域の歴史を知ることができたり、まちあるきの最中に地域の方と触れ合うことができた。

実施の分担：穂積製材所プロジェクトスタッフ…企画、運営
地域住民…企画（相談）、地域の案内

○他施設への視察

実施内容：フォレスト伊賀での間伐体験。

実施方法：三重県森林・林業経営室の方のご紹介でフォレスト伊賀へ間伐体験、見学会を実施。

隣接する木材市場に行くことで、林業の一連の流れの一部を知る。

実施の分担：穂積製材所プロジェクトスタッフ…参加者
三重県森林・林業経営室…フォレスト伊賀のご紹介、企画

得られた成果及び自己評価	<p>※支援の成果、波及効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <p>○木工体験モニターツアー、環境学習（評価：A）</p> <p>今回、日帰りのワークショップを実施することで、短時間でどのようなプログラムを組め、どんなことが伝えられるのかが実証できた。今回は対象者が学生だったこともあるが、参加者の内数名はツアー後に本プロジェクトのスタッフとして関わってくれている。短時間でも木工の楽しさ、林業の課題について伝えられたと実感しています。次回からは、森林問題についてのパンフレット等を作成し、より森林問題について理解して頂けるよう努めたい。</p> <p>○木工ワークショップ（評価：B）</p> <p>木工ワークショップを楽しんで頂け、プロジェクト地域の方向けに本プロジェクトの取組みを直接住民の方に伝えられる機会を設けることができた。次回からは口頭で本取組みを伝えるだけでなく、持ちかえていただけるリーフレット等を準備したい。連絡先等を記載し、今後のプロジェクトにも参加いただけるような仕組みをつくりたい。</p> <p>○まちあるき（評価：A）</p> <p>地域のことをより知りたいという想いから実行した。これまで出会ったことのない方に出会えたことは、都市の学生スタッフにとって島ヶ原をより身近に感じることができる機会となった。まちあるきで発見したことはマップにまとめ、今後島ヶ原に訪れた方にお渡しできる資料としたい。</p> <p>○他工房への視察、他施設への視察（評価：A）</p> <p>これまでにない視点で本プロジェクトを振り返る、いい機会となった。他の工房を見学することで、本プロジェクトの強み、弱みを改めて知ることができたので、今後に展開に活かしていきたい。また、間伐や林業の一連の流れを実際に体験できたことで、本プロジェクトスタッフの林業問題の理解度が深まった。</p>	
	評価 ラン ク	<p><input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった</p> <p>（該当する評価に<input checked="" type="checkbox"/>を付けてください。）</p>

（注） 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が 50 万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

その他参考となる書類 ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	災害にも強い多文化共生地域づくり事業
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	NPO法人 伊賀の伝丸
実施期間	平成23年9月26日～平成24年3月31日
支援額 (注釈参照)	2,940,000円 【内訳】 人件費 1,999,479 通勤費 112,489 交通費 10,035 諸謝金 210,050 使用料 122,185 通訳費 104,650 翻訳費 35,700 通信運搬費 30,291 文具消耗品費 140,967 印刷正本費 1,540 資料代 72,640 消費税 99,974
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	以下の7つのステークホルダーと当団体で「検討会議」を今期6回実施した。メーリングリストも作成し、情報共有や連絡調整を行ってきた。当初心配していた企業さんの参画も達成され、協働で事業を推進してきた。 ----- 地域自治組織（小田町住民自治協議会）会長1名 企業（株式会社エクセディ）室長と次長2名（会議には1名） 県（三重県生活・文化部国際室）3名（会議には1名） 県（三重県生活・文化部NPO室）3名（会議には1名） 市（伊賀市市民生活課多文化共生係）1名 市民活動団体（伊賀日本語の会）代表1名 在住外国人3名（会議には2名程度出席）
事業概要	地域のコミュニティ力を高め、災害時に地域住民と外国人住民が共に助け合える関係作りを事業目的とする。伊賀市小田地区住民自治協議会をモデル地区とし、当住民自治協議会や三重県・伊賀市・地元企業と協働し、次の事業を行う。1. 外国人住民が防災訓練に参加 2. 地域住民と外国人住民が定期的な交流 3. 外国人住民が地域活動を知り、それらの参加割合を増やす。
事業内容	協働者 小田地区住民自治協議会・三重県・伊賀市・株式会社エクセディ・伊賀日本語の会・在住外国人住民 と当団体（NPO法人伊賀の伝丸） ◇協働者による検討会の実施（計6回） 情報共有と目的達成にむけて、事業内容の検討、ふりかえり、計画案を検討。 ◇小田地区在住外国人向け「自治会と防災に関するアンケート」の実施

	<p>伊賀の伝丸スタッフと通訳が外国人住民宅約 80 件を訪問。聞き取り調査。防災や自治会活動などに対する意識調査の実施。</p> <p>啓発を兼ねて、防災啓発リーフレットや多言語情報紙を配布。</p> <p>◇多文化座談会（交流会）の実施（2月12日及び3月18日）</p> <p>伊賀市の外国人住民の状況を住民に紹介</p> <p>外国人ゲストを招待し、日本生活での喜びや戸惑いなどを紹介</p> <p>グループ別に日本人と外国人が楽しくコミュニケーションしながら、地域活動や、防災についても話す機会を持つ。</p>
得られた成果及び自己評価	<p>◇かつて、地域自治組織と企業、外国人住民が、それぞれを意識しながらも同じテーブルに着くことはなかった。同じテーブルで、多文化のまちづくりを話し合う場を設けることができたことは、大きな成果である。このマルチステークホルダーのメンバーとは、シンポジウムの開催など、来期には実働体としても協働する機会が増える予定である。</p> <p>◇自治組織を中心とした交流会の参加者アンケートでは、ひざを突き合わせての交流に、日本人住民、外国人住民双方とも高い満足度が示された。また、まちの住民には多文化共生を推進する人材などのポテンシャルがあることが確認できた。来期の継続的な活動への足掛かりがつかめた。</p> <p>◇戸別訪問アンケートで、地域に暮らす外国人の意識と、居住実態も合わせて確認することができた。今まで潜在化していた在住外国人へアプローチが難しかったが、顔の見える存在として今後の交流が期待できる。</p>
評価ランク	<p>□S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた □B：一定の成果が得られた □C：限定的であるが成果が得られた □D：成果が得られなかった</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別業にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

その他参考となる書類 ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	日本一のバリアフリー観光県づくり																
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 (該当するものにチェック)																
事業実施主体名	特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリースターセンター																
実施期間	平成23年10月1日～平成25年3月31日																
支援額 (注釈参照)	<p>※ 支援額は総額及びその内訳を記載してください。</p> <p>3,102,400円</p> <table> <tr> <td>人件費(諸手当含む)</td> <td>926,892円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>395,100円</td> </tr> <tr> <td>日当交通費</td> <td>78,950円</td> </tr> <tr> <td>会場費</td> <td>81,535円</td> </tr> <tr> <td>資料作成費</td> <td>770,000円</td> </tr> <tr> <td>製本印刷費</td> <td>660,000円</td> </tr> <tr> <td>アンケート経費</td> <td>183,500円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6,423円</td> </tr> </table>	人件費(諸手当含む)	926,892円	旅費	395,100円	日当交通費	78,950円	会場費	81,535円	資料作成費	770,000円	製本印刷費	660,000円	アンケート経費	183,500円	その他	6,423円
人件費(諸手当含む)	926,892円																
旅費	395,100円																
日当交通費	78,950円																
会場費	81,535円																
資料作成費	770,000円																
製本印刷費	660,000円																
アンケート経費	183,500円																
その他	6,423円																
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	<p>各地の観光協会、事業者(宿泊観光施設等)等と連携してバリアフリー観光勉強会の開催。</p> <p>三重県健康福祉総務室UDグループとの連携(UDアドバイザーの活用等)</p>																
事業概要	<p>本事業の目的は、三重県を日本一のバリアフリー観光県とすることによる、県内観光各地の集客振興と、三重県のノーマライゼーション化の社会的実現である。</p> <p>伊勢志摩でのバリアフリー観光推進の実績と、全国のバリアフリー観光地が採用する「パーソナルバリアフリー基準」の開発および指導者としての実績をもって、三重県全域の観光施設および宿泊施設を対象に、調査、アドバイスするとともに、障がいのある旅行者からの相談を全県カバーして受け、トラブル無く紹介斡旋する。また、その過程と達成により、地域社会のノーマライゼーション化を実現する。</p>																
事業内容	<p>三重県内の観光地にバリアフリー観光推進の有利性を説明</p> <p>①伊賀上野地区 ②松阪地区 ③榊原温泉 ④津カントリークラブ ⑤東紀州地区 ⑥志摩地区</p> <p>観光事業者や専門員として活動してくれる市民を集めての研修会(実施名称:勉強会)開催</p> <p>12月8日 伊賀地区 12月9日 松阪地区 12月～1月 榊原温泉地域、津カントリー倶楽部での事業者個別対応 1月30日 東紀州地区 2月20日 志摩地区</p> <p>上記の研修会(実施名称:勉強会)を経て専門員として活動してくれる方たちを含めた専門員育成(実施名称:研修会)開催</p>																

	<p>3月6日 伊賀地区(ヒルホテルサンピア伊賀 調査)</p> <p>3月27日 松阪地区(松阪フレックスホテル 調査)</p> <p>12月の最初の研修会(実施名称:勉強会)の前に、健康福祉部 健康福祉総務室(ユニバーサルデザイングループ)が育成してきたUDアドバイザー約1000人にむけて、「日本一のバリアフリー観光県づくり」事業の説明と、研修会(実施名称:勉強会)の案内のDMを発送。</p> <p>そのため、各地における研修会(実施名称:勉強会)には、UDアドバイザーの方々が多く出席。</p> <p>また、研修会(実施名称:勉強会)時にアンケートを行ったときに専門員として活動したいか?という問いにほとんどの方が希望し、また次回の専門員育成(実施名称:研修会)にかなりの率で出席していただくこととなり、UDアドバイザーの活動意識が高いことを再認識した。</p>
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>事業計画にそってほぼ計画通りに進行しており、数値目標としては達していない部分もあるものの、次年度に達成できる予定である。</p> <p>対象としたそれぞれの地域では、バリアフリー観光に関する感心が急速に高まっており、三重県全体でこのような動きになるのは、今後の観光振興において非常に有利であると肌で感じている。</p> <p>また、伊勢神宮の式年遷宮と結びつけて観光振興を行いたいと考えている地域がほとんどで、「三重県バリアフリー観光センター」よりも「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」のエリアとして扱って欲しいという声もある。</p> <p>当NPOと各地の観光行政および三重県UD室との協働は概ね実現しているが、三重県観光関係との協働が薄く、当方および県側からも、この協働関係を強化しなくてはならないと思われる。</p>
<p>評価 ラン ク</p>	<p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった (該当する評価に<input checked="" type="checkbox"/>を付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

その他参考となる書類 ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	外国籍児童生徒の放課後学習支援事業
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	特定非営利活動法人 愛伝舎
実施期間	平成23年9月26日 ~ 平成24年3月31日
支援額 (注釈参照)	3,003,000円 人件費 2,122,116円 謝金 103,000円 書籍 15,245円 旅費 106,254円 通信費 55,937円 会場費 160,000円 消耗品費 23,713円 その他 416,735円
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	運営委員会：各学期末(10月、12月、3月実施) メンバー：県(国際室、男女共同参画・NPO室)、アポーヨミエ、三重大学、支援者、特定非営利活動法人愛伝舎 支援者会議：月1回(1月、2月、3月実施) 支援者による学習支援：週2回および定期試験前1週間(11月中旬より実施) 研修参加：適宜
事業概要	公立小中学校、高校に通学する外国籍児童生徒を対象として、学習言語の獲得を目標とする学習支援を行う。問題文章の論理的な展開を理解できるようにし、類似する語彙を使い分けられる運用力をつけていく。中高生には進学できる学力をつけることを目標にする。
事業内容	外国籍小中学生に週2回、および中学生はそれに加えて定期試験前1週間毎日の学習支援。現在2人の支援者とコーディネーターが支援者会議を通して子どもに関する共通理解と支援方法の改善を図り、支援に一貫性を持たせている。 また、津市のブラジル人学校アポーヨミエの学童預りの児童に週1回学習支援を行っている。こちらは複数学年構成の一斉授業なので、算数のベースとなる九九を中心に教科特有の日本語表現を学び、運用できる力を育てるとともに概念を学んでいくことを目指している。 これらの学習、支援内容を運営委員会において取り上げ、各マルチステークホルダーの視点からサポートしていただいている。

<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>●中3HC：これまで学校外での学習経験なし。内申を上げるために2学期末試験では数学を重点学習（来塾前平均7点→2学期末27点）、冬休みからは受験科目に特化して英語を学習。2学期の担任面談で入試突破は難しいと言われていた志望校の合格を勝ち取った。</p> <p>●小3TR：公文式学習の経験あり。九九の完成と1年生の漢字の学び直し。学年相応の漢字については書けないため、学年を下げた余裕を持って取り組める内容から始めている。余裕から自信が生まれ、学習意欲が湧いて積極的に取り組むようになった。また、それに伴って学習規律も身につけ始めている。</p> <p>●アポーヨミエ：6～9名の複式編成の一斉学習。教科特有の日本語の言い回しを学習して語彙や文章に対する意識が向上し、問題に対して適切な立式に繋がってきている。</p> <p>つまづきを理解した的確な学習支援によって、短期間でそれぞれの児童生徒の成長は著しい。大きく成果が上がったといえよう。</p> <p>しかし、体制を整え熱心に支援しても、事前リサーチで10名いた希望者が事業開始時に0名になったり、自動車を買ったからと辞めたり、月謝が払えないと言いながら携帯を買い与えたり、約束をすっぴかしたり、など予測できない日常の困難が多々あった。保護者の教育観やライフスタイルが子どもにも与える影響は大きく、生活規律面での乱れがもたらす支援効果の低さに支援側のジレンマがある。自分の将来を広げるために今なにが必要かということシャワーのようにインプットする必要がある。</p> <p>今後、中学生に対しては保護者の生活感覚と日本の教育観とのズレを子ども自身に意識させることで社会人に必要なマナーや技能を習得させていくことが重要であり、総合的な支援活動として取り組みたい。</p>
<p>評価ラ ンク</p>	<p>□S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた □B：一定の成果が得られた □C：限定的であるが成果が得られた □D：成果が得られなかった (該当する評価に<input checked="" type="checkbox"/>を付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

その他参考となる書類 ※ 都道府県において適宜設定すること。